

9 課

8月29日

人を引きつける 態度を育てる



安息日午後 8月22日

暗唱聖句

ただ、心の中でキリストを主とあがめなさい。また、あなたがたのうちにある望みについて説明を求める人には、いつでも弁明のできる用意をしていなさい。しかし、やさしく、憤み深く……弁明しなさい。(1ペテロ3:15、16、口語訳)

心の中でキリストを主とあがめなさい。あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。それも、穏やかに、敬意をもって……弁明するようにしなさい。(1ペテロ3:15、16、新共同訳)

今週の聖句

ヨハネ4:27~30、39~42、マタイ15:21~28、IIテサロニケ1:1~4、ローマ15:7、エフェソ4:32、1ペトロ3:15

今週のテーマ

イエスの生涯について研究すればするほど、人々を受け入れ、認める彼の能力に、私たちはますます驚きます。イエスは、当時の宗教指導者たちを容赦なく叱責しましたが、罪に苦しみ、罪悪感に悩み、どうしようもない運命の中にある人々は喜んで受け入れられたのです。イエスの恵みは、彼らのためのものであり、イエスの憐れみの手は、極悪人にさえ差し伸べられました。イエスの赦しは、彼らの罪の深さよりも限りなく深く、イエスの愛は、際限がありませんでした。

イエスは、ほんのわずかな高慢も優越感も、お見せになりませんでした。彼は人間1人ひとりの中に、墮落したものの、神のかたちに創造された人の姿を、ご自分が救うために来られた人の姿をご覧になりました。彼の愛が及ばないほど遠くにいる人もいなければ、彼の恵みが届かないほど落ちてしまった人もいません。イエスは、接するすべての人に敬意を払い、彼らにふさわしい尊厳を持って扱われました。王国のために、イエスは彼らに影響を及ぼされました。彼らを信じておられたからです。彼らの生き方は、イエスがおられるところで変えられました。イエスが彼らのことを深く気遣われたからです。彼らは、イエスが信じてくださったとおりの姿になろうと立ち上がったのでした。

私たちは今週の研究で、人々に対するイエスの態度についてさらに探求し、それらの原則を私たち自身の生活の中で用いる方法を見いだします。

問1 ヨハネ4：27～30、39～42を読んでください。イエスとサマリアの女との対話は、思いも寄らない場所にいる人であったとしても、さまざまな人が福音に心を開いているという真理を、いかにはっきり示していますか。

福音を受け入れる心を見いだすなどと、弟子たちが夢にも思わなかった場所、それがサマリアでした。サマリア人は教理や礼拝を巡って、絶えずユダヤ人と対立していました。その敵対意識は、長年にわたるものでした。かつてサマリア人は、エルサレムに神殿を再建することに参加したいと望みましたが、周辺の異教文化の人々との結婚や正統的でない見解のゆえに、その機会を与えられませんでした。結果として、サマリア人は自分たちの神殿をゲリジム山に建てました。福音を宣べ伝えても実を結ばない場所として、弟子たちはためらうことなくサマリアのそばを通り過ぎていたのです。

イエスは、弟子たちに見えなかったものをご覧になりました。福音を受け入れる心です。ヨハネが記したヤコブの井戸の女の物語は、このような言葉で始まっています——「〔イエスは〕ユダヤを去り、再びガリラヤへ行かれた。しかし、サマリアを通らねばならなかった」(ヨハ4：3、4)。イエスはサマリアを通らなければなりません。なぜなら、思いも寄らぬこの場所に福音を受け入れる心があると、聖霊によって確信させられていたからです。聖霊によって私たちの目に天来の油が塗られるとき、ほかの人には困難しか見えない場所に可能性が見えます。ほかの人には不毛な畑にしか見えない場所に、私たちは神の国のための豊かな魂の収穫を見るのです。

問2 使徒言行録8：4、5、14を読んでください。サマリアでのイエスの働きは、最終的にどのような結果になりましたか。

弟子たちなら、神の言葉の真理を聞く機会をサマリア人に与えることすらせずに、サマリア地方を通り過ぎたことでしょう。しかしイエスは、彼らの目に見えなかったものをご覧になりました。彼は、聖霊が1人の女の心に福音を受け入れる素地をつくりだしておられることに気づかれたのです。彼女の劇的な回心は、その町の大勢の人に衝撃を与えました。私たちの場合、必ずしも自分のあかしの働きから結果がすぐに生じるのを見るときは限りません。しかし、福音を受け入れようとする心に私たちが種をまくなら、それらはいつの日か、神の栄光のために実を結ぶでしょう。

私たちがほかの人にどれくらい影響を及ぼせるのかは、しばしば私たちの態度によって決まります。厳しく、批判的で、不愛想な態度は、人々をあなたから遠ざけ、たとえあかしができたとしても、彼らはあなたの言葉を、(それがどれほど正直なものであろうと) たぶん受け入れないでしょう。

それとは対照的に、好意的な態度やほかの人への信頼は、彼らを私たちに引きつけ、友情の絆を生み出します。イエスはこの原則を次のようにうまく言いあらわされました——「もはや、わたしはあなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人が何をしているか知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼ぶ。父から聞いたことをすべてあなたがたに知らせたからである」(ヨハ 15:15)。友だちというのは、弱さや誤りにもかかわらず、互いを受け入れ、喜びや悲しみを素直に分ち合います。

問3 マタイ 15:21~28、マルコ 14:6~9 を読んでください。イエスが救いの恵みを持ってそれぞれの女性に手を差し伸べ、信頼を築こうとしておられることを、これらの箇所ของどういふところが示していますか。

マタイ 15 章の女は、カナン人でした。イエスは最初、彼女がしつこく願うことで、信仰が深まるように、彼女の要求を意図的に拒まれました。イエスは最終的に彼女の願いを聞き入れると、次に驚くべき発言をなさったのです。それは、当時のユダヤの宗教指導者が、哀れなカナン人の女に決して言わない言葉でした。イエスは人々がいる前で、「婦人よ、あなたの信仰は立派だ」(マタ 15:28) と言われたのです。いずれの宗教教師であれ、口にするのできる最高のほめ言葉の一つを、イエスは彼女に述べられたのでした。彼女の心がどれほど喜びに震え、彼女の人生がどれほど変えられたか、あなたは想像できるでしょうか。

高価な香油をイエスの足に塗った女は、ユダヤ人でした。評判が悪く、ひどい失敗をしでかし、何度も罪を犯しましたが、赦され、変えられ、新たにされた女です。ほかの人たちが彼女を非難したとき、イエスは彼女をほめ、その行いを好意的に見ていただきました。そして、「世界中どこでも、福音が宣べ伝えられる所では、この人のしたことも記念として語り伝えられるだろう」(マコ 14:9) とはっきり言われたのです。

先に読んだ二つの物語を考慮に入れるなら、人を引きつける積極的な態度に不可欠なものは何ですか。あかしに関してだけでなく、生活全般に関して、あなたにはどのような態度の修正が必要ですか。

友情だけで人々をキリストに勝ち取ることはできません。私たちは多くの友だちを持っているかもしれませんが。一緒にいて楽しい人たちです。しかし、もし私たちが、自分にとってのキリストの意味や、自分がいかにキリストによって変えられたかということを彼らに話さなければ、私たちの友情は永遠にわたる変化を少しももたらさないのです。確かに、友だちと一緒にいることは楽しいかもしれませんが、神は私たちにそれ以上のことを求めておられます。友情だけでは人々をキリストのもとへ連れて来ることはできないでしょうが、友好的でない態度は人々をキリストから遠ざけます。

使徒パウロは、「愛に根ざして真理を語(る)」(エフェ4:15)ことを私たちに思い出させています。友情の絆は、私たちが可能な限り人々に同意し、彼らを受け入れていることを行動で示し、ふさわしい場所で彼らをほめるときに築かれます。人々の悪いところではなく、良いところを見つける習慣をつけることは、なんと大切なことでしょう。

問4 II テサロニケ1:1~4を読み、パウロがテサロニケの信徒を具体的にほめていることを、いくつか書き出してください。

他人の悪いところを見つけて喜んでいようような人たちがいます。彼らは、だれかが正しく行わなかったことを見つけると、自分のほうが良く思えるというそれだけの理由で、うれしがっているようなのです。

使徒パウロは正反対でした。彼は、自分が仕えた教会の良いところを探しました。確かに、彼は過ちを叱り、罪を容赦しませんでした。その主眼は、自分が設立した教会を向上させることにありました。そのために彼が用いた一つの方法が、その教会が正しく行ったことを強調することでした。

良好な人間関係の大切さに関して、エレン・G・ホワイトは注目すべきことを述べています。「もし私たちが神の前にへりくだり、親切で礼儀正しく、また心優しく憐れみ深くなるなら、現在1人しか回心していない場所で、100人が真理へ回心するだろう」(『教会への証』第9巻189ページ、英文)。

上記の『教会への証』の言葉を考えてください。もしあなたの教会の1人ひとりから、親切、礼儀正しさ、優しさ、憐れみがあふれ出るとしたら、その教会はどうなるでしょうか。そういう教会は、どのように見えるでしょうか。あなたの心の中を見つめ、この領域で改善できる方法がないか、自問してみてください。

問5 ローマ15:7、エフェソ4:32を読んでください。わたしたちが他者をおもてなしする理由は何ですか。

使徒パウロはこれら二つの箇所、互いをおもてなしすることの根拠にある原則を示しています。キリストが私たち1人ひとりを赦し、受け入れてくださったのに、私たちは互いをおもてなし、受け入れることを拒めるでしょうか。実際、相手の人の欠点にもかかわらず、私たちが互いをおもてなしを受け入れることができるのは、まさにイエスが私たちをおもてなしに入れてくださったからなのです。

このことの意味を真剣に考えてください。あなた自身や、あなたがしてしまったことで、いまだに悩んでいること（あなただけが知っていること、ほかの人に知られたら、あなたが恐れをなしてしまうこと）について、考えてください。

しかし、それがどうだというのでしょうか。信仰によって、あなたはキリストにおもてなしを受けていただいています。彼は、ほかの人が知らないこともすべてご存じです。確かに、彼はすべてを知っておられますが、それにもかかわらず、あなたをとにかく受け入れてくださるのです。あなたの善良さのゆえではなく、キリストご自身の善良さのゆえです。

では、ほかの人に対するあなたの態度は、どうあるべきでしょうか。

ある人にとっては理解しがたい考えでしょうが、純粋な受容とは、私たちがその人をおもてなしに、罪深い習慣を持ったまま受け入れることを意味します。なぜなら、彼らは神のかたちにかたどって創造された人間だからです。「わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださった」（ロマ5:8）ので、私たちはほかの人をおもてなし、受け入れることができます。私たちが対するキリストの愛が、ほかの人に対する私たちの受容とおもてなしのまさに基礎なのです（ロマ5:6～10）。

しかし、相手をおもてなし、思いやる関係がひとたび築かれたなら、愛情をこめて聖書の真理をその人に提示する必要がしばしばあります。そうしないことは、相手をおもてなしに愛することです。私たちは友だちとして、人生を変える永遠の真理を自分の友人に伝えるよう、十分気にかけるべきです。

イエスの態度は、「あなたの好きなように何でもしなさい。だいじょうぶ。それでも私はあなたをおもてなしするから」というものではありませんでした。そうではなく、「あなたがこれまでどんなことをしてきたとしても、私はあなたを喜んで赦し、変わるための力を与えよう」というのが、イエスの態度でした。愛情深い態度を伴ったキリストの精神で、聖書の真理を謙虚に伝えることによって、心を勝ち取り、人生を変えることができるのです。

イエスは、「愛のゆえ」に真理を示すことをなおざりになさいませんでした。なぜなら、そうしないことは愛ではないからです。愛はいつも相手にとっての最善を追求します。愛と真理の間に対立はありません。謙虚に親切に示された真理は、愛の言葉です。イエスは、「わたしは道であり、真理であり、命である」(ヨハ14:6)と言われました。救いに至る道はイエスだけです(使徒4:12)。私たちがイエスの恵みによって救われるのは、彼の真理を知り、真理を生きられるようになるためです。愛のない真理は、堅苦しい律法主義をもたらし、律法主義は霊的な生活を息苦しくさせます。いわゆる真理のない「愛」は、中身の無い寛容な感傷主義をもたらし、不確かさという海に人を漂わせるままにします。愛によって示された真理は、明確な方向、目的、確かさを与える本物のクリスチャンの経験をもたらすのです。

問6 Iペトロ3:15、IIテモテ4:2、テトス3:4、5を読んでください。これらの聖句の何という表現が、聖書の真理を伝えるときに、謙虚で受容的な心を持つ大切さを示していますか。

新約聖書の記者たちは、決して真理よりも愛を強調していません。彼らは、愛と真理、恵みと律法、憐れみと正直さをみごとに一体化しています。ペトロは仲間の信者に、「あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。それも、穏やかに、敬意をもって……弁明するようにしなさい」(Iペト3:15、16)と勧めています。言い換えれば、あなたは、自分が何を信じ、なぜそれを信じるのかを知っておく必要があります、その信じていることと理由を説明できなければならないということです。これは、あなたがあらゆる答えを持っているとか、自分の信じていることをほかの人に納得させなければならないという意味ではありません。単に、あなたは「穏やかに、敬意をもって」——つまり、謙虚さと、議論すべき問題が重要であるという感覚をもって——自分の信仰を説明し、弁明することができるという意味です。

パウロは若い弟子テモテに、「御言葉を宣べ伝えなさい。折が良くても悪くても励みなさい。とがめ、戒め、励ましなさい。忍耐強く、十分に教えるのです」(IIテモ4:2)と助言を与えています。またテトスには、神にあって生まれ変わった人を救ったのは神の思いやりと愛であることを思い出させています(テト3:5)。

もしだれかが、「なぜあなたはクリスチャンなのですか」と尋ねてきたら、あなたは何と答えますか。なぜそう答えるのですか。

「キリストのうちには、牧者のやさしさ、親の愛情、^{あわ}憐れみ深い救い主の比類のない恵みがある。キリストは、最も魅力のあることばで祝福をお与えになる。主はそうした祝福を宣言されるだけでは満足されない。主は、それらの祝福を、自分のものにしたいという願いを起こさせるように、最も魅力的な方法で提供される。キリストのしもべたちも同じように、言いあらわしようのない賜物であるキリストの栄光の富を紹介するのである。教理の単なるくりかえしでは何1つできない時に、キリストのすばらしい愛は心をとかし、これを従えるのである。

『あなたがたの神は言われる、「慰めよ、わが民を慰めよ』『よきおとずれをシオンに伝える者よ、高い山にのぼれ。よきおとずれをエルサレムに伝える者よ、強く声をあげよ、声をあげて恐れるな。ユダのもろもろの町に言え、「あなたがたの神を見よ」と。……主は牧者のようにその群れを養い、そのかいなに小羊をいだし、そのふところに入れて携えゆ……かれる』(イザヤ40:1, 9~11)』(『希望への光』1113ページ、『各時代の希望』下巻376ページ)。

話し合いのための質問

- ① 残念なことですが、人の欠点を指摘することで気分がよくなる人たちがいます。私たちはどうしたら同じ精神状態に陥らないようにできるでしょうか。
- ② 次のような場面を考えてみてください。葬儀から戻って来たばかりの友人が、次のように言います——「(亡くなった)おばさんは天にいて私を見守ってくれているから、私はとてもうれしいんです」。今週の研究で学んだ原則に基づいて、あなたはどのように応じるでしょうか。つまり、「死者の状態」がいかに重要な問題であろうと、なぜ今はこの主題について友人に聖書研究をする最善の時ではないのですか。
- ③ 私たちがほかの人にあかしをすることを踏まえて、次の言葉について話し合ってください。「他人の中に悪を探す行為そのものが、そうする人の中に悪を育てあげる。他人の短所に心を留めることによって、それと同じ姿に変化していく。しかし、イエスをながめ、その愛と完全な品性について語る時、わたしたちもそのみ像^{かたち}に変わり、イエスがわたしたちの前に示された高い理想を思い、考えることによって純潔な聖なる雰囲気^{かたち}にまで向上し、神のみ前に至ることができる。そしてそこに留まるとき、わたしたちから光が出て、接するあらゆる人に反映して行くのである」(『ミニストリー・オブ・ヒーリング 新装版』331ページ)。